

第12回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時：2020年2月3日（月）13時00分～15時00分
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞小林委員、勝治委員、服部委員、松下委員、横山委員
＜社内委員＞勝野社長、片岡副社長、倉田副社長、三澤専務、平岩専務
（服部常務、経営考査室長、広報室長、原子力部長、原子力土建部長、コーポレート本部部長等同席）

4. 議事要旨

「前回のアドバイザーボードでのご意見について」、「原子力部門、経営考査室、広報部門の取り組み」、「今回の安全向上会議での指示・議論」、「低炭素社会実現に向けたエネルギー政策と原子力発電の取り組み」、「新規制基準への対応状況と今後の方向性」について当社より説明。多岐にわたる議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

- 今後の運用において中心を担う若年層から意見を出してもらい、意見を吸い上げる仕組みをつくっている点は評価できる。
- トラブルは、コミュニケーションの不具合で起きていることがほとんどである。個々人の中でのコミュニケーションはもとより、部門間のコミュニケーションにもしっかりと取り組むことでトラブルの防止につながる。
- 指摘事象への対応に加え、今後は一歩踏み込んで、不適合未済事象への対応にも取り組むとよい。
- プレジョブブリーフィングは、仕事の前に5分でもよいので行うとよい。可能ならば仕事の終わりにも5分、習慣化するとよい。
- リーダーは、「平時には現場へ、何かあった場合には動くな。」が、鉄則である。これをリーダー教育でしっかりとやってほしい。
- 地域の皆さまに判断してもらうには、全ての情報を出して賛否を問うような広報活動が必要である。
- 世界標準のやり方については、実際の運用にあたり、世界標準どおりにガチガチに実施するのではなく、業界や日本の風土を踏まえた方法も取り入れることが望ましい。
- 実機の運転現場での体験は、次元の違う緊張感があるため、特に停止期間中の新入社員にこうした経験をさせてほしい。
- これからの若者は、発信者となり得るので、こちらから情報提供だけでなく、彼らから、広報素材やコンテンツに加え、若者はどういったものを見るのか、どのように感じるのかなどを教えてもらえるとよい。
- マニュアルに記載できることは、形式的・表層的なことであり、裏に暗黙知が隠れている。暗黙知に気づき、身に付けていくと、守るという意識レベルを超えて行動できるようになる。
- OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）での気づきをファンダメンタルズ（浜岡原子力発電所の運営に携わる一人ひとりが活動する際に心得るべき事項）に織り込んで

いくと、何年か経って安全文化を語るができるようになる。

- 現場から集めた声は、無駄にすることのないよう、経験値として現場への展開を工夫してほしい。
- 一般的に、不確かさを含んでいる値であれば、これを超えるかもしれないということはあるが、このことは誰も判断できないため、多重防護の考え方を採っている。

以 上